

大学における起業教育が起業家の早期輩出に与える影響

武蔵大学経済学部経営学科 山崎ゼミナール 2年
内山蓮 富田凌太 榎本悠太郎 田嶋理紗子 細川理沙

・問題意識

現在、武蔵大生の多くは、一般企業に就職する意思を持っており、起業という選択肢を持つ学生は少数派と思われる。そうした中で、武蔵大学卒業生の櫻井颯氏は大学卒業後すぐに起業した。かつて、同じ武蔵大生であった櫻井氏が、大学卒業後すぐに起業という道を選んだのか疑問を持ち、インタビューを行った。その内容を踏まえ、本研究では大学での起業教育や支援制度と起業家の早期輩出との関係性に注目した。

なお、本論文では、「起業家」を少し狭義にとらえ、「大学在学中または大学卒業後就職せず、自ら新規に個人・法人企業を創業した経営者」と定義する。また、大学在学中に起業家になる人、もしくは大学卒業後すぐに起業家になる人を大学が輩出することを、本論文では「起業家の早期輩出」と呼ぶこととする。

・仮説

大学における起業教育は起業家の早期輩出にプラスの影響を与える

・結果

分析の結果、A大学の学生は武蔵大生よりも、卒業後すぐの起業に対する意識が高く、卒業後の希望進路に起業を考えている人がいること、また回答したA大学の学生の約半数が起業教育関連科目の受講後に起業に対する意識が前向きになったと答えていることが明らかになったことから「大学における起業教育は起業家の早期輩出にプラスの影響がある」という仮説は、ある程度支持されたといえる。加えて、A大学の学生は武蔵大生よりも、会社に勤めながらの副業的起業や経験を積んでからの起業への意欲も高い。つまり起業教育は、少し長期的にみた起業意欲の向上にもプラスの影響を与えていることが指摘できよう。

他方、「会社経営に成功した人は社会的に賞賛されるべきだ」という質問に関しては、両校の間でその平均値に有意な差が見られなかった。つまり、起業教育の有無にかかわらず、学生の起業家に対するイメージ・評価は高いと言える。だが、上記のように大学間で起業への意欲に差が生じていることから、起業教育の有無は学生が起業家を自分自身の現実のキャリアと考えるかどうかに影響を与えているのではないかと考えられる。